



はじめて、いつきです

○月×日 携帯電話が鳴った。見覚えのない番号だった。03？ てことは、東京？ 「はい」と電話に出ると、「はじめまして。日本性教育協会のMと申します。実は頼みたいことがあります」。なんでも、JASEの月報に連載をしてほしいとか。

「は？ わたしが？」

「とりあえず一度お会いしたいのですが…」

とりあえず会ってみないとわからない。そこで定番の質問。「あの、会うのはいいのですが。コーヒーを飲みながらがいいですか？ それともビールを呑みながらがいいですか？」

Mさんは笑いながら「ビールを呑みながらにしましょう」と答えられた。だいたいこの質問の答で相性がわかる（笑）。

なんだかおもしろいことが起こりそうな予感…。

* * *

・はじめまして。土肥いつきと申します。いったいなぜ畠違いのわたしのところにこの話が来たのか、いまだによくわからないのですが…。でも、これからよろしくお願ひいたします。とりあえず今回は自己紹介です。

わたしは京都の公立高校で数学の教員をしています。家族は、わたしとパートナー、そして子どもがふたり、犬が一匹です。趣味は、スキー、キャンプ、バイク、ランニング。やはり自然とふれあうのが好きです。もうひとつの趣味は、最近気がついたのですが、「交流会」のようです。人と人との会う場所（encounter の会 = en 会 = 宴会？）をつくるのって、ほんとうにおもしろいんです。そのはじめての経験は、自分の勤務校での出来事でした。

いまから20年ほど前のことです。その年、わたしの勤務校に入学してきた在日朝鮮人（ここでいう「朝鮮」は朝鮮半島にルーツを持つ人たちの総称です）を、入学式当日に集める試みをはじめました。「同和部（当時）の紹介」「奨学金の紹介」「外国人登録時には公欠がとれることの連絡」「社会科学研究部というクラブの紹介」が主な内容でした。

集められた5人の在日の子どもたちは、一様に硬

い表情をしていました。一通りの説明が終わったら、ある教員が「今日集められた感想は？」と聞きました。すると、みんな口々に「なぜ集めた」「イヤだった」「特別扱いしないでほしい」と言いました。ところがそんな中で、ひとりの生徒が「わたし一人でなくてよかった」とポツリと言いました。このひとことをきっかけに、5人を社研に誘い、3人が入部してくれました。活動といつても何をするわけでもありません。単に活動日にみんなで集まって、よもやま話をするだけのことでした。でも、週1回の社研の活動日は、わたしにとってはとてもスリリングな日になりました。

考えてみると、活動の場所では在日の子が3人。日本人はわたし一人。妙な居心地の悪さに、「在日の子どもたちって、いつもこういう感じなのか」とあらためて思いました。

そこで話されている内容も、スリリングでした。「みんなトックって知ってる？」「知ってる知ってる。おいしいやんなあ」「中学の時な、みんなに『トックって知ってる？』と言うたら、『それなに？』って言うねん。で、『お餅がスープに入ってるねん』って説明したら『それ、トックって言わへんで。お雑煮って言うんやで』って言われてん」「へー」。

こんな会話もありました。

「昨日、バレーボールのワールドカップ見た？」
「見た見た！ 韓国勝ったな！」「うち、家族みんなで韓国応援してた！」「うちも！ そやけど今日な、クラスの子に『昨日、日本惜しかったなあ』って言われて、こっち振られてん。思わず『え？ う、うん』って答えてしもてん」「へー」。

おもしろいなあと思いながらも、もしも社研がなかったら、この子どもたちはこの思いをひとりで抱えたまま高校生活を送らなくちゃならないんだと思いました。そして、学校の中に、こういう話ができる場所が必要なんだと思いました。

あ、紙面が尽きてしまいました。こんな感じで、日々感じたことをお伝えできればと思います。では、次回…。
(土肥いつき 高校教員)